

長野統括センターにおける 地域共創の取り組み



実施日 令和7年4月2日(水)

講師

JR東日本長野支社
長野統括センター所長・長野駅長

高橋 誠一 氏

本日はJR東日本長野統括センターの地域共創、主に観光分野についてお話しさせていただきます。

まず、長野統括センターについてですが、軽井沢―飯山間の新幹線駅、北陸新幹線、篠ノ井線、飯山線の乗務員、地域活性化を推し進める観光事業については長野統括センターの業務となりました。総勢460名の大所帯となっております。

私自身は昭和55年日本国有鉄道に入社し、平成4年に松本旅行センター（現びゅうプラザ松本）に配属になりました。ここでの仕事現在の私の土台になっています。それまで旅行業については全く経験が無くカウンター業務から始めました。バブルがはじけた直後ではありましたが旅行需要は旺盛で松本平の中小企業中心に営業に回り

添乗業務もこなしました。松本平の特性として在日（韓国・朝鮮）企業が多いのですがそういった企業の社長さん方に旅行の手配を頂きました。皆さんとの交流が広がり、社員旅行を通じて社員家族旅行や企業の紹介など多くの機会をいただきました。

さて、本日のテーマである地域との共創ですが、現在も進行中の「旅する北信濃」という商品があります。スマートフォン一つで完結する観光サービスでMaas（マース・Mobility as a Service）施策と表現されるサービスです。交通、食事、体験等をスマートフォンでつなぎ、お客様にとって使いやすいものとなっています。このサービスは2021年の戸隠神社式年大祭の際「まるつと戸隠」としてスタートし、2022

年の善光寺御開帳時に「旅する北信濃」と名称変更し現在に至ります。

「旅する北信濃」はサービス提供自治体からの費用負担も含めた提携、主要観光施設との提携、飲食店などでの割引・特典の提供、専用サイトのインバウンド対応などを長野統括センターのメンバーが地域を回ってサービスの拡大や参加施設に対するフォローを担っています。このつながりが当社の他のサービス、例えばSuicaの加盟店開拓、JRE MALLふるさと納税への自治体の参画などにつながりました。

デジタル化など先端サービスを活用しながらも人のつながりを介した営業の大切さも地域共創においては大事なのではないかと申し上げ結びといたします。

末広町ピックアップ

◎ながの祇園祭

御祭礼屋台巡行開催

日時…宵山 令和7年7月12日(土)
本祭 令和7年7月13日(日)
会場…弥栄神社・善光寺・長野駅前広場・長野市中心市街地

7月13日ながの祇園祭御祭礼屋台巡行が長野市中心市街地で開催された。末広町は南千歳町と合同会所を長野駅



前広場に設営し各町の屋台、お先乗りをお迎えした。前日12日は宵山がセントラススクエアで開催された。

当日は緑町、西後町、北石堂町、権堂町が引き屋台を運行しお先乗りは北石堂町の小林泰君が務めた。各屋台が駅前広場に到着すると踊りが披露され大勢の観客が注目していた。また、新田町、問御所町が置き屋台を展示した。熱中症も心配される高温となったが各屋台当町会所も水分補給に留意した運営で無事、解散した。

来年、令和8年は東町、桜枝町、南千歳町、末広町が年番町となっている。末広町は屋台を所有していないため屋台運行は無いが祭りの運営部分で貢献が求められる。

商工会議所講演会レポート

視点を变えて

地域社会の未来を考える

「社長100人博士化計画」
から学ぶ企業・地域の未来」

日時…令和7年5月30日
講師…三重大学大学院
地域イノベーション学研究科
教授 西村訓弘 氏
会場…ホテル犀北館
主催…長野商工会議所

地域の中小企業の社長達が「博士論文」を執筆するレベルまで自己や自社を大学の研究室でたき上げ、客観視することで地域のイノベーション創出につながる、三重大学大学院で行われている取組みの当事者の講演が行われた。

西村氏は三重県や北海道を例に人口が減り続ける農村や漁村いわゆる過疎地域と言われる地域、大都市を抱えていない県で県内総生産が増加していることに着目。人口減少が続く中においても従来と違ったやり方で収入が増している地域がある、これは日本全国でも出来る事で新しい技術、働き方、新しい考え方を持った人材が地域に組み込まれることで地方から日本が変わっていくと述べた。

西村氏は「イノベーション」の定義をオーストリア・ハンガリー帝国出身の経済学者シュンペーターが唱えた「創造的破壊都心結合による変革」であるとし、西村氏が三重大学大学院で実践する地域イノベーション学で学んだ「博士社長」たちが創造する事業が三重県内で実を結び始めている。

一例としてハウス栽培のトマトを生産するうれし野アグリ(株)浅井氏はハウスを温める石油代の高騰に悩んでいたところ、同じ西村研究室で学んでいた辻製油の辻氏が生産過程で発生する熱水（90℃）の有効活用をしたいたとの考えが結びつき、うれし野アグリがトマト栽培施設を辻製油の隣接地に設置し熱水を再利用する事で辻製油は熱水の処理、うれし野アグリは燃料費の問題を解決できる仕組みが出来た。うれし野アグリは反収は1500万円（稲作農業の約100倍）と言う高収益を上げている。

西村氏曰く、こうした小文字の「innovation」の集積で社会の変革が可能となる事、また、変革する事に「不戦敗をしない」、すなわち自分からあきらめないことが大事だと述べ講演を締めくくった。

今回の講演会に関連して、長野商工会議所では長野県立大学と共同で地域イノベーション塾を開講する。この場で学んだ方々の起こすイノベーションの発現が待たれる。

第55回 長野びんずる

末広町通りエリア化

令和7年8月2日(土)

「末広町通りにびんずる踊りが戻って来た」一日だった。

2000年前後までは末広町通りも全面長野びんずるの踊りエリアとなっていたが、ある時期から踊りエリアから外れる事が出てきていました。

長野びんずる実行委員会には毎年のように申し入れをし、昨年までは末広町通り北側が踊りエリア化され、末広町交差点でUターンしたり末広町内は北側の半分で踊ったりしていました。

今年は長野びんずる実行委員会を初め、バス、タクシー等の公共交通機関、警察等の理解と協力により末広町通り全面を通行止めにし、25年ぶりに広々と

安全に復活させることができました。当日は踊り連の活気と見物客で久しぶりに末広町内ににぎわいが戻ってきました。

